

航空従事者学科試験問題

P35

資格	航空通信士	題数及び時間	20題 40分
科目	法規 [科目コード：04]	記号	C4XX040830

注 意 (1) 「航空従事者学科試験答案用紙」(マークシート)の所定の欄に、「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目」、「科目コード」、「科目コードのマーク」、「資格」、「種類」、「氏名」及び「生年月日」を記入すること。

「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目コード」及び「科目コードのマーク」の何れかに誤りがあると、コンピュータによる採点処理が不可能となるので当該科目は不合格となります。

(2) 解答は「航空従事者学科試験答案用紙」(マークシート)に記入すること。

配 点 1問 5点

判定基準 合格は100点満点の70点以上とする。

- 問 1 航空法の目的について、誤りはどれか。
 (1) 航空機の航行の安全及び航空機の航行に起因する障害の防止を図るための方法を定める。
 (2) 航空機を運航して営む事業の発展を図る。
 (3) 航空の発達を図る。
 (4) 公共の福祉を増進する。
- 問 2 航空法上、自家用機が有視界飛行方式で飛行する場合、携行しなければならない燃料で正しいものはどれか。
 (1) 着陸地までの飛行を終わるまでに要する燃料の量に、夜間において飛行しようとする場合は、巡航高度で45分間飛行できる燃料の量又は昼間において飛行しようとする場合は、巡航高度で30分間飛行できる燃料の量を加えた量
 (2) 着陸地までの飛行を終わるまでに要する燃料の量に、夜間において飛行しようとする場合は、巡航高度で30分間飛行できる燃料の量又は昼間において飛行しようとする場合は、巡航高度で15分間飛行できる燃料の量を加えた量
 (3) 着陸地までの飛行を終わるまでに要する燃料の量に、当該着陸地までの飛行を終えるまでに要する時間の10%に相当する時間を飛行することができる燃料の量を加えた量
 (4) 航空法では定められていない。
- 問 3 航空障害灯の説明で(a)～(d)の正誤の組み合わせについて(1)～(4)の中で正しいものはどれか。
 (a) 地表面又は水面から90m以上の高さの物件には設置しなければならない
 (b) 進入表面、転移表面又は水平表面の投影面と一致する区域にある全ての物件には設置しなければならない
 (c) 障害灯の色は航空白、航空赤及び航空緑である
 (d) 障害灯は高光度航空障害灯、中光度白色航空障害灯、中光度赤色航空障害灯及び低光度航空障害灯の四種類がある
- | | (a) | (b) | (c) | (d) |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| (2) | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| (3) | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| (4) | 正 | 誤 | 正 | 正 |
- 問 4 技能証明を有していない者が、操縦教員の監督の下に操縦練習を行った場合、飛行経歴は誰によって証明されなければならないか。
 (1) 操縦練習を行った者
 (2) 航空機の所有者
 (3) 操縦練習の監督者
 (4) 国土交通大臣
- 問 5 耐空証明について誤りはどれか。
 (1) 耐空証明は、日本の国籍を有する航空機でなければ、受けることができない。
 (2) 耐空証明は、航空機の種類を指定して行う。
 (3) 航空機は、有効な耐空証明を受けているものでなければ、航空の用に供してはならない。
 (4) 航空機は、その受けている耐空証明において指定された航空機の用途又は運用限界の範囲内でなければ、航空の用に供してはならない。
- 問 6 国土交通省令で定められている、気圧高度計を飛行経路上の地点のQNHの値によって規正しなければならない高度で正しいものはどれか。
 (1) 10,000ft未満を飛行する場合
 (2) 13,000ft未満を飛行する場合
 (3) 14,000ft未満を飛行する場合
 (4) 15,000ft未満を飛行する場合

- 問 7 航空機の種類を列記したもので正しいものはどれか。
 (1) 飛行機、回転翼航空機、滑空機
 (2) 重航空機、軽航空機、超軽量航空機
 (3) 国内定期航空運送事業機、国際航空運送事業機、航空機使用事業機
 (4) 上級滑空機、曳航装置付き動力滑空機、曳航装置なし動力滑空機
- 問 8 航空交通情報圏内を航行する場合どのようにしなければならないか。
 (1) 当該空域における他の航空機の航行に関する情報を入手するため、国土交通省令で定めるところにより国土交通大臣に連絡した上、航行を行わなければならない。
 (2) 当該空域における他の航空機との管制間隔を維持するため、国土交通省令で定めるところにより航空交通管制用自動応答装置を作動させた上、航行を行わなければならない。
 (3) 当該空域における他の航空機との管制間隔を維持するため、国土交通省令で定めるところにより飛行計画を通報した上、航行を行わなければならない。
 (4) 当該空域における安全を確保するため、国土交通省令で定めるところにより国土交通大臣の許可を得た上、航行しなければならない。
- 問 9 航空機乗組員が航空身体検査基準に適合しなくなった場合の処置で正しいものはどれか。
 (1) 操縦練習であれば航空機を操縦することができる。
 (2) 自家用操縦士の業務範囲であれば航空業務を行うことができる。
 (3) 航空身体検査証明の有効期間であれば航空業務を行うことができる。
 (4) 航空身体検査証明の有効期間であっても航空業務を行うことができない。
- 問 10 報告しなければならない「事故が発生するおそれがあると認められる事態」にあたらぬものはどれか。
 (1) 閉鎖中の又は他の航空機が使用中の滑走路からの離陸又はその中止
 (2) 飛行中における無線機の故障
 (3) 緊急の措置を講ずる必要が生じた燃料の欠乏
 (4) 航空機内における火災又は煙の発生及び発動機防火区域内における火災の発生
- 問 11 航空日誌に関する記述の下線部 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせについて (1) ~ (4) の中で正しいものはどれか。

(a) 航空機の使用者は、航空機を (b) 航空の用に供した場合又は (c) 整備し、若しくは (d) 改造した場合には、遅滞なく航空日誌に国土交通省令で定める事項を記載しなければならない。

- | | (a) | (b) | (c) | (d) |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| (1) | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| (2) | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| (3) | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| (4) | 正 | 正 | 正 | 正 |

- 問 12 3,000メートル未満の高度で、航空交通管制区、航空交通管制圏及び航空交通情報圏以外の空域を飛行する航空機に適合する有視界気象状態の条件 (a) ~ (d) の組み合わせで正しいものはどれか。

飛行視程が (a) 以上であること。
 航空機からの垂直距離が上方に (b)、下方に (c) である範囲内に雲がないこと。
 航空機からの水平距離が (d) である範囲内に雲がないこと。

- | | (a) | (b) | (c) | (d) |
|-------|-----------|---------|---------|-----------|
| (1) | 1,500メートル | 300メートル | 300メートル | 1,500メートル |
| (2) | 5,000メートル | 150メートル | 150メートル | 600メートル |
| (3) | 1,500メートル | 150メートル | 300メートル | 600メートル |
| (4) | 5,000メートル | 300メートル | 150メートル | 1,500メートル |

問 13 航空機の離陸又は着陸の経路が水上に及ぶ場合、装備しなければならない救急用具で (a) ~ (d) の正誤の組み合わせについて (1) ~ (4) の中で正しいものはどれか。

- (a) 防水携帯灯
- (b) 非常信号灯
- (c) 落下傘
- (d) 救命ボート

	(a)	(b)	(c)	(d)
(1)	誤	誤	正	正
(2)	正	誤	正	正
(3)	誤	誤	誤	誤
(4)	正	正	誤	誤

問 14 航空法で定める「粗暴な操縦」でないものはどれか。

- (1) 急降下飛行
- (2) 運航上の必要がない低空飛行
- (3) 高調音を発する飛行
- (4) 速度を急に変更する飛行

問 15 特別有視界飛行 (スペシャル V F R) の許可を受けて管制圏を飛行する際、従わなければならない条件で正しいものはどれか。

- (1) 飛行視程を 1,500m 以上に維持して飛行すること。
- (2) 飛行視程を 3,000m 以上に維持して飛行すること。
- (3) 飛行視程を 5,000m 以上に維持して飛行すること。
- (4) 飛行視程に係わる条件はない。

問 16 衝突予防等に関する文章の下線部 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせについて (1) ~ (4) の中で正しいものはどれか。

航空機は、(a) 他の航空機又は物件との衝突を予防し、並びに飛行場における航空機の (b) 飛行の安全を確保するため、国土交通省令で定める (c) 進路、経路、速度その他の航行の方法に従い、航行しなければならない。但し、水上にある場合については、(d) 海上衝突予防法の定めるところによる。

	(a)	(b)	(c)	(d)
(1)	正	正	誤	正
(2)	誤	誤	正	正
(3)	誤	正	正	誤
(4)	正	誤	誤	誤

問 17 滑空機以外の航空機に搭載が義務づけられている書類 (a) ~ (d) の正誤の組み合わせについて (1) ~ (4) の中で正しいものはどれか。

- (a) 航空機登録証明書
- (b) 型式証明書
- (c) 整備規程
- (d) 飛行規程

	(a)	(b)	(c)	(d)
(1)	誤	誤	正	正
(2)	正	誤	誤	正
(3)	誤	誤	正	誤
(4)	正	正	誤	誤

- 問 18 有視界飛行方式で飛行する場合、飛行計画で明らかにしなくてもよいものはどれか。
- (1) 機長の氏名
 - (2) 代替飛行場
 - (3) 出発地及び移動開始時刻
 - (4) 使用する無線設備

- 問 19 機長の出発前の確認事項に該当しないものはどれか。
- (1) 離陸重量
 - (2) 燃料の搭載量
 - (3) 搭乗者の氏名
 - (4) 積載物の安全性

- 問 20 最低安全高度について、次の文章の空欄に入る言葉で正しい組み合わせはどれか。

有視界飛行方式により飛行する航空機にあっては、飛行中（ア）のみが停止した場合に地上又は水上の人又は物件に危険を及ぼすことなく（イ）できる高度及び次の高度のうちいずれが高いもの

人又は家屋の密集している地域の上空にあっては、当該航空機を中心として水平距離（ウ）の範囲内の最も高い障害物の上端から（エ）の高度

- | | | | | | | | |
|---------|------|---|----|---|--------|---|--------|
| (1) ア | 動力装置 | イ | 着陸 | ウ | 600m | エ | 300m |
| (2) ア | 動力装置 | イ | 回避 | ウ | 1,500m | エ | 1,500m |
| (3) ア | 主要装備 | イ | 飛行 | ウ | 1,000m | エ | 1,000m |
| (4) ア | プロペラ | イ | 着陸 | ウ | 600m | エ | 600m |